

平成28年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について。(答申)

教科〔理科〕 種目〔理科〕

平成28年度から使用する中学校用教科書の採択について

教科 [理科] 種目 [理科]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、中心部に商工業地域が多く、マンションや大規模な商業店舗も増えてきているが、周辺部は、山や川など自然に恵まれ、比較的的自然から直接学ぶことができる地域である。また、こども文化科学館、安佐動物公園、植物公園、江波山気象館等の施設があり、様々な分野の事象を観察・調査することができる施設が整っている地域である。
- 生徒は、平成26年度の「基礎・基本」定着状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、観察・実験に対する興味・関心は高いが、事象とその要因を関係付けて説明したり、観察・実験の結果を分析・解釈し事象が起こる要因を見いだしたりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫 ② 観察・実験の技能を習得させるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 問題解決的な学習を実施するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑨ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

3 各教科書の特徴及び意見

1 基礎・基本の定着

(1) 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認と他教科と関連を図るため、各章の導入部や本文の側注に、「これまでに学んだこと」の欄を設けている。
- 学習内容を確認するため、各章末に「チェック」のコーナーを設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「学習内容の整理」と評価問題として「確かめと応用」を設けている。また、「学習内容の整理」では、関連ページを示している。
- つまづきやすい学習内容には、「例題と考え方」「練習」「確認」の欄を設けている。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年27、第2学年25、第3学年22設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付けるとともに、実験操作のコツや注意事項にマークを付して示している。注意事項は5種類のマークで示している。
- 第1学年の「基礎操作 グラフのかき方」で、2種類のグラフの書き方と失敗例を説明している。また、グラフの利点と誤差について記述している。
- 第1学年の「基礎操作 顕微鏡の使い方」で、観察の失敗例を写真で示し、その対処法を説明している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に、身近な現象や不思議な現象の写真を示している。
- コラム「科学でGO!」に、「ふしぎ大陸」「防災大陸」「エコ大陸」「はたらき大陸」「歴史大陸」の4つのテーマを設定し、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。
- 各単元末に、「ニッポンの科学」を設け、実生活と関連する内容や最新の科学技術を紹介している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 目的意識や課題意識をもって観察・実験に取り組めるよう、観察・実験前後に「比べよう」「予想しよう」「推測しよう」「調べかたを考えよう」「考察しよう」の欄を設けている。
- 各単元末に、「学びを広げよう」を位置付け、自由研究の事例を紹介している。
- 「どこでも科学」のコーナーで、別の材料を使った観察・実験や別の方法の観察・実験を示している。
- 各学年の巻頭に「探究の流れの例とこの教科書の使い方」を設け、探究の過程を示している。
- 各単元に、「じっくり実験しよう」のコーナーを設定し、考察のポイントを具体的に示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 観察・実験の季節的要因や生徒の発達段階を考慮して単元を配列している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。
- 指導順序の変更がスムーズに行えるように「リンクマーク」で分野間の関連を示している。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年21、第2学年29、第3学年31である。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- 人型キャラクターや生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 各学年の巻末に、「校外施設の活用」を掲載している。
- 第1学年の「葉のつくり」では、葉のつくりを写真とイラストを合成した図で示している。
- 各学年の巻末資料に、教具（世界の活火山分布・温帯低気圧3D・星座早見盤）を付している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色と線種を変えている。
- 発達段階を考慮し、第1学年の文字サイズを大きくしている。

5 言語活動の充実

(1) 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の「生命・地球」「物質・エネルギー」の始めに、「基本操作 レポートの書き方」を示している。
- 各学年の観察・実験後に、「私のレポート」を位置付け、分析・解釈したことを表現する方法を示している。
- 課題把握、予想、考察などの場面で話し合う活動を設定している。
- 単元末の「確かめと応用」で、学習したことを説明したり、学習したことを活用して説明したりする問題を設けている。
- 「学びを活かして考えよう」のコーナーで、学習したことを活用して説明する場面を設定している。
- 第1学年の巻頭に「話し合いのしかた」や「発表のしかた」を示している。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴である、各学年の巻頭に「探究の流れの例とこの教科書の使い方」を設け、探究の過程を示していること、各単元に、「じっくり実験しよう」のコーナーを設定し、考察のポイントを具体的に示していること、「学びを活かして考えよう」のコーナーで、学習したことを活用して説明する場面を設定していること、第1学年の巻頭に「話し合いのしかた」や「発表のしかた」を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や事象とその要因を関係付けて説明したり、観察・実験の結果を分析・解釈し事象が起こる要因を見いだしたりする力に課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認と他教科と関連を図るため、各単元の導入部に、「これまでに学習したこと」、本文の側注に「思い出そう」等の欄を設けている。
- 学習内容を確認するため、本文中に「問い」、各章末に「章末問題」のコーナーを設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「まとめ」と評価問題として「単元末問題」「読解力問題」を設けている。
- つまづきやすい学習内容には、「例題」「解答例」の欄を設けている。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年34、第2学年29、第3学年22設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとめりごとに見出しを付けるとともに、実験操作のコツや注意事項にマークを付して示している。
- 第1学年の「基本操作 グラフのかき方」で、2種類のグラフのかき方を説明している。また、誤差について記述している。
- 第1学年の「基本操作 顕微鏡の使い方」で、観察の失敗例を写真で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に、身近な現象や不思議な現象を写真やイラストで示している。
- コラム「くらしの中の理科」「トピック」「科学史」「プロフェッショナル」を設け、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 実験後に、「話し合ってみよう」というコーナーを設け、結果を分析して解釈する方法を示している。
- 各学年の巻末に、「課題研究・自由研究にチャレンジしよう」を位置付け、探究の過程と自由研究の事例を示している。
- 「もっと」のコーナーで、観察・実験の別の方法を示している。
- 第1学年の「身近な生物の観察」で、観察・記録のしかたを示している。
- 各単元に、終章「学んだことを活かそう」を位置付け、学習したことを活かして課題を解決する活動を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 観察・実験の季節的要因や理科室の使用を考慮して単元を配列している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。
- 指導順序の変更がスムーズに行えるように「弓矢のマーク」で分野間の関連を示している。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年25、第2学年44、第3学年43である。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- 2人の教師と生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 各学年の巻末に、「Let's GO 科学館・博物館」を掲載している。
- 第1学年の「光の性質」で、巖島神社のウォータースクリーンの写真を使って、光が反射して目に届く現象を示している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色と線種を変えている。
- 吹き出しの中の文章は、文節により改行している。

5 言語活動の充実

(1) 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の各単元に「私のレポート」を示している。
- 各単元の終章「学んだことを活かそう」で、学習したことを活用して説明したり、話し合いをしたりする活動を設定している。
- 「章末問題」や「単元末問題」で、学習内容や学習内容を活用して説明したりする問題を設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認と他教科と関連を図るため、各単元の導入部に、「これまでに学んできたことをチェックしよう」、各章の導入部に、「これまで学んできたこと」、本文の側注に「思い出してみよう」等の欄を設けている。
- 学習内容を確認するため、本文中に「問い」、各章末に「学習の確認」のコーナーを設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「学習のまとめ」と評価問題として「単元末問題」「活用しよう」を設けている。また、第1・2学年の巻末に「各学年のまとめ」、第3学年の巻末に「総まとめ」を設けている。
- 「少数のかけ算・割り算の復習」を第1学年の巻末「資料」に掲載している。また、つまずきやすい学習内容には、「例題と解き方」「問い」の欄を設けている。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年24、第2学年24、第3学年20設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付けるとともに、実験操作のコツや注意事項にマークを付し示している。
- 第1学年の「基本操作 グラフの書き方」で、2種類のグラフの書き方と各グラフの失敗例を説明している。また、グラフの利点と誤差について記述している。
- 第1学年の「基本操作 顕微鏡の使い方」で、観察の失敗例を写真で示し、その対処法を説明している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に、身近な現象や不思議な現象を写真で示している。
- コラム「科学の窓」に、「日常とのつながり」「科学の歴史」「環境」「資料」の4つのテーマを設定し、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。
- 各単元末に、「科学を仕事に活かす」を設け、実生活と関連する内容や最新の科学技術を紹介している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 目的意識や課題意識をもって観察・実験に取り組めるよう、観察・実験前後に「話し合ってみよう」の欄を設けている。
- 各学年の巻末に、「自由研究」を位置付け、探究の過程と自由研究の事例を示している。
- 「Let's Try」「チャレンジ」のコーナーで、別の材料を使った観察・実験や別の方法の観察・実験を示している。
- 各学年の巻頭に「観察・実験の進め方」を設け、探究の過程を示している。
- 観察・実験のまとめでは、分析・解釈の仕方が分かるよう、「結果」と「考察とまとめ」を分けて示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 地域の実情にあわせて単元の学習順序を組みかえられるよう、各学年とも前半に1分野を、後半に2分野の単元を配置している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年10、第2学年15、第3学年24である。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- フクロウや生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 第1学年の巻末資料に、広島県倉橋島の花こう岩採掘場を取り上げている。
- 第1学年の「葉のつくり」では、葉のつくりを写真とイラストを合成した図で示している。
- 第2学年の巻末資料に、教具（原子カード）を付している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色と線種を変えている。

5 言語活動の充実

(1) 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の3つの単元に「基本操作 レポート・ノートのかき方」を示している。また、第2・3学年の巻末資料に、「観察・実験のレポート・ノートのかき方」を示している。
- 課題把握、予想、考察などの場面で話し合う活動を設定している。
- 「単元末問題」で、既習事項を活用したり、理由を説明させたりする問題を設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認をするため、各単元の導入部に、小学校の学習内容を示し、本文の側注に「思い出そう」の欄を設けている。
- 学習内容を確認するため、本文中に「要点をチェック」のコーナーを設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「要点と重要用語の整理」と評価問題として「基礎・基本問題」「活用・応用問題」を設けている。また、各学年の巻末に「学年末総合問題」、第3学年の巻末に「中学校総合問題」を設けている。
- 「理科で使う算数・数学」を各学年の「巻末資料」に掲載している。また、つまずきやすい学習内容には、「例題と解き方」の欄を設けている。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年27、第2学年29、第3学年25設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付けるとともに、禁止事項・注意事項にマークを付けて示している。注意事項は4種類のマークで示している。
- 第1学年の「基礎技能 グラフの表し方」で、グラフの書き方を説明している。また、誤差について記述している。
- 第1学年の「基礎技能 顕微鏡の使い方」で、顕微鏡の使い方を説明している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に、身近な現象や不思議な現象を写真で示している。
- コラム「ハローサイエンス」に、「生活」「環境」「歴史」「安全」の4つのテーマを設定し、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 目的意識や課題意識をもって観察・実験に取り組めるよう、観察・実験前後に「考えよう」「話し合おう」「調べよう」の欄を設けている。
- 各学年の巻末に、「自由研究」を位置付け、探究の過程と自由研究の事例を示している。
- 第1学年の巻頭に、「理科学習の進め方」を設け、探究の過程を示している。
- 習得した知識や技能を活用できるよう「活用しよう」を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 地域の実情にあわせて単元の学習順序を組みかえられるよう、各学年とも前半に1分野を、後半に2分野の単元を配置している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年29、第2学年31、第3学年26である。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- ロボットや生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 各学年の巻末に、「校外の施設を活用しよう」を掲載している。
- 第2学年の巻末資料に、広島市の健康づくりセンター健康科学館を取り上げている。
- 各学年の巻末資料に、教具（カメラ作成シート・原子モデルカード・星座早見作成シート）を付している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色を変えている。

5 言語活動の充実

(1) 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の巻頭に、「基礎技能 レポートのかき方」を示している。
- 各学年、「私のレポート」を位置付け、分析・解釈したことを表現する方法を示している。
- 課題把握、予想、考察などの場面で話し合う活動を設定している。
- 単元末の「活用・応用問題」で、学習したことを活用し、説明させる問題を設定している。
- 「活用しよう」のコーナーで、学習したことを活用して説明する活動を設定している。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫

- 既習事項の確認と他教科と関連を図るため、各章の導入部や本文中に「ふり返り」、本文の側注に「教科と関連」の欄を設けている。
- 各章ごとの、学習内容を確認するため、別冊「マイノート」に「基本のチェック」のコーナーを、2ページにわたって設けている。
- 学習内容や到達度を確認するため、各単元末に内容をまとめた「学習のまとめ」を設定している。また、各学年の別冊「マイノート」に評価問題として「力だめし」と「学年末総合問題」、第3学年の別冊「マイノート」に「中学校総合問題」を設けている。
- 「理科でよく使う算数・数学」を各学年巻末の「サイエンス資料」に掲載している。また、つまずきやすい密度や濃度の学習では、別冊「マイノート」に式の立て方や途中までの式を示している。
- 用語の確認のため、青色シートを添付している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 生徒による観察・実験を、第1学年24、第2学年28、第3学年23設けている。
- 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付けるとともに、実験操作のコツや注意事項にマークを付して示している。注意事項を8種類のマークで示している。
- 第1学年の「実験のスキル 誤差を考えたグラフのかき方」で、2種類のグラフの書き方と、各グラフの失敗例を説明している。また、グラフの利点と誤差について記述している。
- 第1学年の「基礎技能 顕微鏡の使い方」で、顕微鏡の使い方を説明している。
- 別冊「マイノート」に、スケッチや作図などをするコーナーを設けている。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各章の導入部に身近な現象や不思議な現象の写真を示している。
- コラム「ぶれいくtime」に、「先人の知恵袋」「科学偉人伝」「部活ラボ」「はたらく人に聞いてみよう!」の4つのテーマを設定し、学習したことを日常生活や社会と関連付けている。
- 各単元末に、「ひろがる世界」を設け、実生活と関連する内容や最新の科学技術を紹介している。
- 日常生活に見られる身近な事象について、「どうして～なのだろうか」と問いかける形で学習課題を示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 目的意識や課題意識をもって観察・実験に取り組めるよう、観察・実験前後に「考えてみよう」「予想してみよう」「話し合ってみよう」の欄を設けている。
- 各学年の巻末に、「きみも科学者」を位置付け、「探究の道しるべ」を設け、探究の過程や自由研究の事例が示している。
- 「ためしてみよう」「別の方法にトライ」のコーナーで、別の材料を使った観察・実験や別の方法の観察・実験を示している。
- 第1学年の「自然の中に生命の営みをみつけてみよう」で、観察のポイントと観察の進め方を示している。
- 第1学年「物質」の学習では、最初に探究的な学習活動を設定し、その具体例を示している。
- 別冊「マイノート」に、考えたことや予想したことを記述できる欄を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 地域の実情にあわせて単元の学習順序を組みかえられるよう、各学年とも前半に2分野を、後半に1分野の単元を配置している。
- 結果を予想させるため、観察・実験の手順と結果は別のページに配置されている。
- 指導順序の変更がスムーズに行えるように「つながるページ」で分野間の関連を示している。
- 小・中・高の系統性をもたせるため、各学年とも4つの領域を「生命・地球編」「物質・エネルギー編」に分けて表現している。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」マークを付し、発展的な学習内容として読み物や説明、観察、実験を紹介している。
- 各学年にある発展的な学習は、第1学年7、第2学年10、第3学年14である。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- フラスコや双眼鏡、生徒のキャラクターを使って、考える視点を示している。
- 第1学年の巻末に、「地域の施設を活用しよう」を掲載している。
- 第1学年の「地球」で、広島市の三角州や耐震補強した校舎、第2学年の巻末資料で、安佐動物園、広島レモン、第3学年の「人間と環境」で、広島土砂災害、「広島湾周辺の自然」、カキの養殖、広島菜を取り上げている。
- 第1学年の「花のつくり」「葉のつくり」では、花の断面や葉のつくりを写真とイラストを合成した図で示している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- グラフの中に複数の線が入る場合、色と線種を変えている。
- 発達段階を考慮し、第1学年の文字サイズを大きくしている。
- 吹き出しの中の文章は、文節により改行している。

5 言語活動の充実

(1) 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫

- 第1学年の「生命・地球編」「物質・エネルギー編」のはじめに、「わたしのレポート」、巻末に「レポートのまとめ方」を示している。
- 各学年、観察・実験後に、「私のレポート」を位置付け、分析・解釈したことを表現する方法を示している。
- 課題把握、予想、考察などの場面で、話し合う活動を設定している。
- 別冊「マイノート」の「力だめし」や各学年末の「学年末総合問題」で、学習したことを活用して説明する問題を設けている。
- 別冊「マイノート」に、話し合う内容について、自分の考えを書くことができるようにしている。
- 第1・2学年の巻末に「理科における話し合いと発表」を設け、観察・実験前後の話し合い、発表のしかたを説明している。
- 観察・実験前後に分析・解釈したことを表現するため、別冊「マイノート」の「サイエンスアプローチ」を設けている。
- 第1学年の観察・実験の考察では、「結果〇から」という表記を入れ、結果との対応を示している。

意見

啓林館の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

新興出版社啓林館の教科書の特徴である、日常生活に見られる身近な事象について、「どうして～なのだろうか」と問いかける形で学習課題を示していること、第1学年の「物質」の学習では、探究的な学習活動を設定し、その具体例を示していること、別冊「マイノート」に、考えたことや予想したこと分析・解釈したことを記述する欄を設けていること、第1・2学年の巻末に「理科における話し合いと発表」を設け、観察・実験前後の話し合い、発表のしかたを説明していること、第1学年の観察・実験の考察では、「結果〇から」という表記を入れ、結果との対応を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や事象とその要因を関係付けて説明したり、観察・実験の結果を分析・解釈し事象が起こる要因を見いだしたりする力に課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。